



みみだより No.45

鳥取聾学校ひまわり分校

聴能担当

R5.5.11

文責：迫田

ゴールデンウィークが終わり、学校に活気が戻ってきました！ 5月の爽やかな空気を身体いっぱい吸い込んで、元気に過ごしましょう！

今まで毎月発行していましたが、今年度から隔月発行になりました。これまでとかわらず聴能に関する情報をお届けしていきます。今回は、学校では学期に1回以上、必要に応じて測定している「聴力測定」について取り上げたいと思います。

聴力測定をするのは何のため？

耳鼻科の病院では、医学的な立場から聴力や耳の症状を調べ、診断が行われます。それを元に、身体障害者手帳の等級の決定や交付、補聴器の交付等、福祉面での支援が受けられます。また耳垢の除去や中耳炎等の治療、聴力検査等の耳鼻科的な聴覚管理を病院で定期的に受けていくことはとても大切です。

一方、学校では、病院のように診断を目的に聴力測定を行うわけではなく、次のことを目的としています。

- * 普段のきこえの状態を把握しておくことで、きこえの変化・補聴器の異常等にいち早く気づくこと
- * よりよいきこえをめざして、補聴器を調整（フィッティング）していくこと
- * よりなじみのある環境で測定をしていくことで、測定そのものに慣れていくこと
- * それにより、正確な聴力閾値（音がきこえ始めた値）に近づけていくこと
- * 病院での検査の抵抗を減らすこと

主にひよこぐみ
～幼稚園

学校で行っている聴力測定は、主に **純音聴力測定（気道）**、**音場聴力測定**、**語音聴力検査**です。

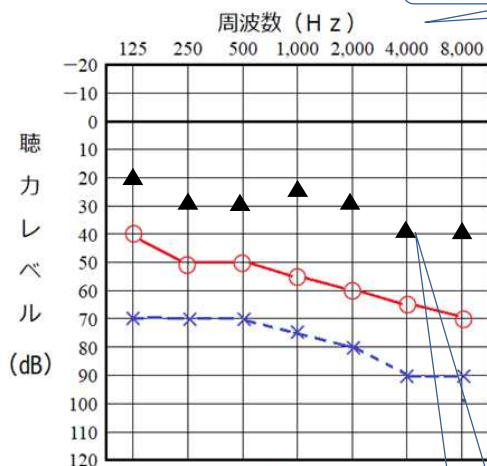
純音聴力測定…補聴器等をつけていないときのきこえ（右耳：○印 左耳：×印）

音場聴力測定…補聴器や人工内耳をつけているときのきこえ（両耳：▲ 右耳のみ：▲ 左耳のみ：▲）

語音聴力検査…ききとり、ききわけの能力を測定し、補聴器等の装用効果を調べる検査

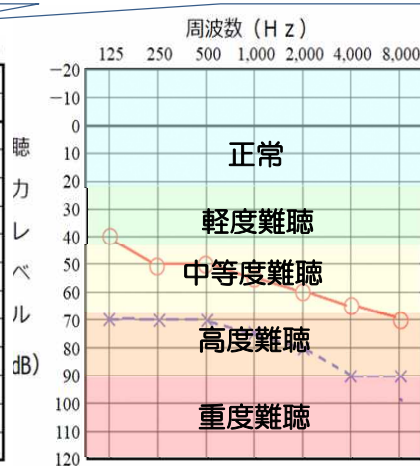
オーディオグラム

〈横軸〉音の高さHz（ヘルツ） 数字が大きいほど高い音



○：右耳の聴力

×：左耳の聴力



正常

軽度難聴

中等度難聴

高度難聴

重度難聴

〈縦軸〉音の大きさ
dB（デシベル）

数字が大きいほど大きな音

▲（補聴器等
装用時）は、
線で結ばない。

★病院や学校からもらったオーディオグラムは、大切に保管してくださいね。

普通の会話は問題ない。

小さな声や 騒音下での会話は、ききとりにくい。きき間違いがある。テレビの音を 大きくしようとする。

普通の大きさの声の会話でも、ききとりにくさや きき間違いがある。

大きな声でも ききとりにくい。
騒音しか きこえない。

耳元の大きな声も ききとりにくい。
日常音は ほとんどきこえない。

ワンポイント 手話



「きく」



「きこえる」

「おやこ手話じてん」より